愛媛県教育委員会
人権教育課
2025年(令和7年)
2月発行

えひめ愛顔の子ども新聞

えひめの子どもたちへのメッセージ
～人とよりよい関係を築くために～

愛媛県教育委員会教育長　髙　岡　哲　也

県内全ての小中学校をオンラインで結んで一斉ライブ授業を行うという、全国でも他に類を見ない「えひめいじめＳＴＯＰ！デイ plus」。今年度は、「人とよりよい関係を築くために」をテーマに、小学校６年生と中学校１年生約23,000人が、いじめ問題について熱心な議論を交わしました。

ライブ授業当日は、ゲームや絵本を用いたワークショップ等を通して、「互いの違いを認め合うことの大切さ」、「いじめられている人にどう寄り添うべきか」、「いじめの場面に遭遇したら自分はどう行動するべきか」など、いじめの問題に正面から向き合い、みんなが前向きな気持ちで学校生活を送るための熱心な話合いが行われました。90分という時間では語り尽くせなかったかもしれませんが、いじめ問題について、他学年の友達や、家族など周りの大人の人と一緒に考えるきっかけにするとともに、この日感じたことを日々の生活に取り入れ、いじめのない学級・学校づくりに向けて取り組んでくれることを期待しています。

さて、来年度から、県内の公立小中学校で、小学校５年生から中学校３年生を対象に、１人１台端末を活用して、人とよりよい関係を築く力を伸ばしていくための「ジブンミカタプログラム」の運用がスタートしますが、この「ジブンミカタ」という言葉には、次のような意味を込めています。

自分が誰かの味方（ミカタ）になる
自分の味方（ミカタ）を増やす
自分が自分の味方（ミカタ）になる
自分や人の見方（ミカタ）を振り返る

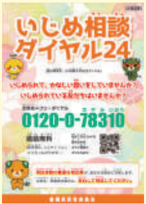
今回のライブ授業でも、「自分を知ることは大事」「自分を大切にできる人は他人も大切にできる」といった発言がありました。今後、このプログラムも活用しながら、自分なりの「ミカタ」を見つけてほしいと願っています。

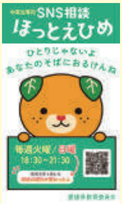
保護者や地域の皆様、子どもたちが安心して毎日を過ごしていくためには、家族や周囲の大人たちの理解とサポート、地域社会全体で人権を尊重する雰囲気が大切です。日頃から子どもたちの様子に目を配り、声にならない声に耳を傾けることで、健やかな成長を支えていただきますようお願いいたします。

最後に、本事業の開催に当たり、御理解と御協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

相談窓口

困ったときは、一人で悩まないで




SNS相談
ほっとえひめ
ひとりじゃないよ あなたのそばにおるけんね
毎週火曜/日曜
18:30～21:30

【愛媛大学教育学部の学生から】

事前授業や当日のライブ授業、新聞づくりのサポートをしてくれました!!

会場にいる児童生徒だけでなく、オンラインでつながった愛媛県内の児童生徒が全員で一つのテーマについて考える様子がとても印象に残りました。みんながよりよい人間関係の築き方について考えを深めている様子から、私たち自身もよりよい人間関係を築いていくことの大切さを再認識することができました。今回のライブ授業で出た意見を、それぞれの学校で取り組めば、一人ひとりの個性を尊重したすてきな学校になると感じました。児童生徒の皆さんには今回のライブ授業で学んだことを大切にして、過ごしていってほしいです。私たちも今回の授業で学んだことをもとに立派な教師になれるよう頑張ります。

来年度は東予から発信します!!

令和7年度は、東予の小中学校をセンター校として「えひめいじめSTOP!デイplus」を開催します。

小中学生
約23,000人が参加
えひめいじめSTOP!デイplus
11/21

人とよりよい関係を築くために
県内一斉ライブ授業 えひめいじめSTOP!デイplus開催！

令和6年11月21日(木)、松前総合文化センターをメイン会場に、県内すべての小中学校をオンラインでつないだ一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!デイplus」が開かれました。小学校6年生と中学校1年生を中心に約23,000人が参加し、「人とよりよい関係を築くために」をテーマに話し合い、学び、考えを深めました。

ライブ授業の前半では、ワークショップを通して、自分にとっての普通は他人にとっては普通ではないことを学びました。「カバン持ちゲーム」ではセンター校が代表して実践し、登場人物の行動について全員で考え話し合いました。「友達が嫌な気持ちになっていることに気付くことができるようにしたい」など、登場人物の立場でどのように行動したらいいのかについて多様な意見が出されました。授業の中盤には、ゲストのライセンス藤原一裕さんが作った絵本『ゲロはいちゃったよ』の朗読の後、藤原さんと共にいじめへの対応等について話し合いました。話合いを通して、自分を大切に守ることや、辛い思いをしている人に寄り添い、守り抜くことの大切さについて意見が交わされました。授業の後半には、人間環境大学の伊藤義徳先生から説明があり、よりよい人間関係を築くために必要なことについて話し合いました。そして、自分や周りの人のことをよく知ることで、いじめの起こりにくい学校づくりについて考えることができました。

講師から

ライセンス
藤原一裕さん

小中学生の話合いやワークショップの様子を振り返りながら、「個性を認め合うことが大切」と提案されました。自分と違う人に出会った際、「変だな」と思うのではなく、「面白いな」と受け取ることでその人と仲良くなれるかもしれないなど、広い視野をもって人と関わることの大切さをみんなに伝えました。

（人間環境大学総合心理学部 教授）
伊藤義徳先生

いじめの問題に真剣に向き合うみなさんに「いじめを受けている子は、いろんな気持ちがあって、そこから抜け出せなくなっている。だからいじめを受けている子に気付いたら、そこから抜け出す応援をしてほしい」と、アドバイスがありました。また、「自分にも周りの人にも優しくして欲しい」とエールを送りました。

【ライブ授業後の保護者アンケート】いじめをなくすために、お子さんたちに向けて一言

- 人それぞれの個性を尊重し、思いやりの心をもち、よりよい人間関係を築いてほしい。
- 物事の善悪は理解できても、それを実行し、よりよい言動を取ることは難しいことだと思うけど、勇気をもって踏み出してほしい。
- 助けを求めることは情けないことではない。自分の心をもっと大切にしてほしい。
- 「考える」ことを忘れず、楽しく生きてほしい。
- 「世界は自分が思っているよりすごく広いし、居場所はそう簡単にはなくならないよ」ということを伝えたい。

参加された保護者の方々から温かい意見を多くいただきました。いじめという問題に向き合い、よりよい人間関係づくりについてこれから家族でも話し合うことができるといいですね。

事前授業

センター校・リモート校では、愛媛県教育委員会による事前授業を実施し、「いじめはなぜ起こるのだろう」をテーマに考えました。

センター校

松前町立岡田小学校

松前町立岡田中学校

リモート校

今治市立乃万小学校

新居浜市立川東中学校

八幡浜市立江戸岡小学校

西予市立宇和中学校

事前授業の感想

○ 人には、その人の「個性」がある。それが違うからと言って、いじったり、からかったり、バカにすることはいけない。みんなが違いを理解して生活していけばいじめは生まれない。

○ いじめが起きる原因は、人との関わり、いじめをしている人の自覚がないなど様々な問題があることを知りました。

○ 普段の生活でいじりだったり、相手の気持ちをよく考えられていなかったり、反省しなければならないことがあったので、これからは相手の気持ちを尊重し、互いの気持ちを理解しなければいけないと思いました。

ライブ授業当日

ゲームを通して

ゲーム1【好きな「お寿司のネタ」教えて・目玉焼きに何かけて食べる？】

ゲームを通して、人にはいろいろな考え方や捉え方があること、それには、正解や不正解がないということを学びました。そして、互いの個性を尊重し、認め合いながら生活することの大切さをみんなで確認しました。

ゲーム2【カバン持ちゲーム】

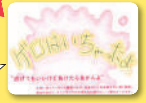
4人での帰り道、じゃんけんに負けた人が他の人のカバンを次の電柱まで運ぶカバン持ちゲームを通して、いじめについて考えました。「電柱に到着。交代のじゃんけんが行われません…」、その時、4人それぞれの立場でできることを考えました。

【カバン持ちゲームを通して話し合ったこと】

- 間違ったことを「間違っているよ」と言葉にできる強い気持ちがあると、みんなが楽しい雰囲気をつくることができる。
- 人を傷付ける雰囲気に気付いたら、一歩踏み出して「それやめよう」と言えることが楽しい学校生活につながる。
- 「カバン持ちゲーム」をすること自体がよくない。

絵本『ゲロはいちゃったよ』を読んで

絵本『ゲロはいちゃったよ』は、藤原さんご自身の実体験をもとに「いじめ」をテーマに作られました。


ゲロはいちゃったよ
逃げてもいいけど負けたらあかん

この絵本の中の大切なキーワード「ゲロ」と「クスリ」について藤原さんに聞いてみたよ

ゲロ 自分の中の嫌だったことや、受け入れられない感情を言葉で表現。

クスリ 心のいやしになるもの。「あるといいな」と思うものをクスリという言葉で表現。

もしいじめを受けたら、その状況から逃げてもいいけど負けたらあかん

【読み聞かせを聞いて考えたこと】

- 主人公のような経験をしている友達に出会ったら助けたい。
- 自分がいじめられたら、親や信頼できる人に相談したい。
- 大事になる前に、「やめて」と言う。

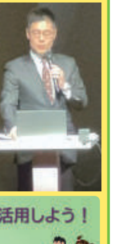
【ライブ授業後の感想】

○ 『ゲロはいちゃったよ』を聞いたときは、つらいことがあると、物語の「ゲロ」のように体に現れることもあるけど、周りの人には気付かれにくいこともあるのかなと思いました。そのため、周りの子が苦しい思いをしていないかなと気を配ったり、無意識に自分もいじめをしたりしないように心掛けようと思います。そして、人によって考え方は違うので、しっかりと受け止めたいです。

○ 藤原さんの書いた絵本の意味が最初は分からなかったけど、藤原さんの思いを聞いて、伝えたいことが分かってきました。「逃げてもいいけど負けたらあかん」という言葉がすごく心に残っています。これからもいじめはダメだし、もしされている子がいたら、勇気を出して助けたいと思いました。

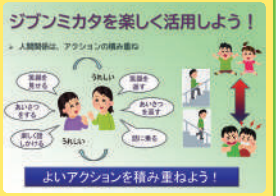
○ 『ゲロはいちゃったよ』を初めて聞いて、いじめをされて、泣くとか、苦しいとかとは違って、ゲロと表現していることに驚きました。いじめられている子がいるんだったら、その人を助けないと、こうやって感想を書いている意味もなくなるので、実行できるようになりたいと思いました。

「よりよい人間関係の築き方」について



人間環境大学総合心理学部の伊藤義徳先生から「よりよい人間関係の築き方」について説明がありました。

よりよい人間関係を築くためには、「『よいアクション』を積み重ねることが大切である」との話があり、その後ワークショップ等を振り返りながら、自分にできることについて意見交換を行いました。


ジブンミカタを楽しく活用しよう！
人間関係は、アクションの積み重ね
うれしい
うれしい
あいさつをする
よいアクションを積み重ねよう！

【よりよい人間関係を築くために自分にできること】

- 個性を尊重し、違いを否定しないで認め合う。
- よいこととよくないことをしっかり考えてから行動する。
- 自分からよいアクションを起こす。
- 本を読んで、視野を広げる。
- 人の意見を一度受け入れて、考えてから行動する。
- いろいろな人と話をして、違いを認め合う。
- 自分を大切にして、周りに流されない。

「ジブンミカタプログラム」がはじまるよ

「アンケートに答えた後、教えてくれるアクションを実行することで、日々の生活が良くなっている気がします」

「ジブンミカタプログラムが、自分のよいところや改善したらよいところを教えてくれるから、はげみになる」

「いじめSTOPデイ!plus」で、ジブンミカタプログラムを先に体験した友達から、このような感想が出されました。

「人とうまく関わる方法が分からない」「人になんと声を掛ければよいか分からない」

令和５年に愛媛県教育委員会が実施したアンケートから、小中学生の約４割がこう感じているということが分かりました。原因はいろいろあると思いますが、新型コロナウイルス感染症が流行し、学校行事や部活動が中止・縮小された結果、人との接触機会が大幅に減ったことも大きいのではないかと思っています。

そこで、この状況を改善し、小中学生のみんなが心や体の健康や周りの人との関わりについて理解するとともに、人とよりよい関係を築く力を伸ばすことを目的として、「ジブンミカタプログラム」を開発し、いよいよ新年度（来年度）から小5～中3の皆さんを対象にスタートすることになりました。

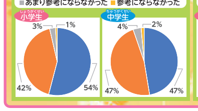
プログラムで取り組むことは、次の五つです。

① 21問のセルフチェックに回答する。
② すぐ返ってくるグラフやメッセージから、心や体の状態を振り返る。
③ 1か月間取り組みたいアクションを一つ選ぶ。（自分で作ることもできる）
④ 決めたアクションに１か月間取り組んでみる。
⑤ 1か月後、取組を振り返る。

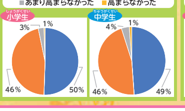
このプログラムには、教育委員会や大学だけでなく、みなさんのことを大切に思うたくさんの大人たちの「願い」が込められています。この取組を通して、一人ひとりが人とよりよい関係を築くための力を伸ばし、安心して生活できる環境を整え、いじめのない明るい毎日を送ることができるようになればと願っています。

【ライブ授業後のアンケート】

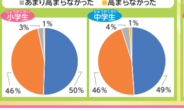
Q「えひめいじめSTOP!デイplus」は参考になりましたか。



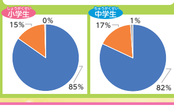
Q いじめをなくすために、自分にできることをしようという気持ちは高まりましたか。



Q いじめをなくすために、今後、いろいろな人とよりよい関係を築いていこうという気持ちが高まりましたか。



Q いじめや差別は絶対にしてはならないと思いますか。



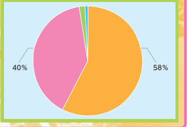
○ 今までは、どこからがいじめなのかあまり分かっていませんでした。しかし、この授業を通して、相手が傷付いたらいじめになることが分かりました。いじめられている人も、いじめを見ている人も一歩勇気を出したら、未来があるということが分かりました。

○ いじめや差別については、よく知っていることだと思っていたけど、本当はもっと深刻だったり、自分が思っているよりも苦しんでいる人がいたりすることが分かりました。だから、ステージに上がっていた人たちが言っていたように、本やインターネット等で知識を付けたり、誰かがいじめられていたらすぐに助けたり、自分がいじめられたら助けを求めたりすることが大切だと思いました。

○ カバン持ちゲームを見たり、『ゲロはいちゃったよ』を聞いたりして、いじめはどのように起こるのかを考えていきました。自分の身の周りのいじめが少しでもなくなるように、先日の授業を生かし自分も積極的に取り組んでいきたいと感じました。

○ いじめSTOP！デイ plus に参加して、やっぱりいじめはだめだと思いました。思っただけでなく、今まで以上にいじめはいけないという考えが深まりました。いじめられている子に気付いたら、恐怖心に打ち勝っていじめを止めたいと思いました。すごく考えが深まった授業になりました。

Q（学校として）「えひめいじめSTOP!デイplus」は参考になりましたか？


■大変参考になった ■参考になった
■あまり参考にならなかった ■参考にならなかった
58%
40%